

# こころの玉手箱

サッカー  
元日本代表選手 2  
ラモス 瑠偉

テレビ番組が縁で親交が始まった

北野武さんにももらった肖像画



私は、問題にぶつかった時に自分のために生きたこと

1995年8月のブラジル戦を最後に日本代表に呼ばれなくなった。97年11月に日本はワールドカップ(W杯)初出場を決めた。もう40歳になっていたが、調子は良かったから代表の役に立ちたい気持ちはふつふつと湧いていた。そんな私を見かねたのか。北野武さん、立川談志さん、明石家さんまさん、木梨憲武さんが発起人になり、「励ます会」を開いてくれた。その会で武さんがプレゼントしてくれたのがイエス・キリストをモチーフに、私が十字架にかけられた絵だった。超多忙な身でいつ

絵を描いたのか。驚きと幸せな気持ちが入り交じり、涙が出そうになった。武さんとの縁は「スポーツ大将」というテレビ番組が始まった85年ころまで遡る。たけし軍団がサッカーの試合をする時、助っ人として何度か駆けつけた。その後、ある店で偶然一緒になったら、私より先にあいさつに来られてびっくり。年の差とか仕事、肩書にこだわらない器の大きさと心配りに感動した。

この絵について武さんと話したことはない。言われなくても分かるというか。ラモスの代表での「復活の日」を信じる。そういうメッセージと受けとめた。

## キリストになぞらえた意味

は1日もない人間だと思っている。ある監督に「ブラジルのクラブと一緒に働こう」と誘われた時も、「日本に骨をうずめる」と断った。妻の初音は親からすると大事な一人娘だから引き離せないと考え、自分の夢より初音を選んだ。

自分のために生きるの簡単だが、面白くない。そんな私の生き方もひっくり返して、武さんは絵にしてくれたのかも知れない。

99年8月23日、東京・国立競技場で私は引退試合を行った。前日、お母さんを亡くされた武さんは観戦をキャンセルした。後日、見に行けなかったかわりに、私の家に送られてきたガラス製のオブジェには「優しさとは、厳しさのことなんだとあらためて教えてくれた男、武士(さむらい)・ラモス瑠偉に感謝します」と書かれていた。

世の中で一番尊敬する人から贈られたものは、それが絵であれ、言葉であれ、生きる励みになる。